国防献金・国債購入を担ったのは、女性・老人・子どもたちでした。婦人団体、常会、学校での慰問文作成の様子がよく分かりました。

地域を散策

『村報』にあった入営名簿には、兵士出身字名が記載されています。その地域には、寺院があり、信仰の拠り所となっています。姥ヶ山地区には「即往寺」、石山地区には「照大寺」、紫竹地区には「順端寺」、中山地区には「楽運寺」、山木戸地区には「常明寺」があります。それらを巡りました。境内には戦死者の墓が数多くあります。先端が四角錐の形状の墓がほとんどで、容易に見付けることが出来ます。墓碑銘に記載されている戦地でのご苦労を偲びつつ、冥福を祈りました。

今後とも、「平和のための戦争展」運動に関わりたいと思います。

（こひがし　よしお・新潟市）

「お楽しみはこれからだ」ったか

小野塚　恒　男

「にいがた北から南から」に書くのは二回目である。前回は現役最後の年で、題は「お楽しみはこれからだ」にした。退職後には楽しいことが待っているにちがいない（待っていてほしい）という願望をこめて、教員生活をふり返った。

今回は、「お楽しみはこれからだ」が本当だったのか、退職後の生活をふり返ってみたい。

一　新しい出会いがあった。

退職後まもなく、「にいがた県民教育研究所」の一員になった。新しく知り合いになった方々や公立高教組の先輩方に教わりながら、

編集作業を進めている。

雑誌の発行に関わったおかげで、語彙が増えた。「埋め草」、「コンピテンス」、「遺糞症」などは、初めて知ったことばである。

いくつになっても、初めて見聞することは刺激を与えてくれる。今年の6月26日(水)の研究所からの帰りには、カラスが青信号できちんと横断歩道をわたっているのを目撃した。生まれて初めて目にした光景だった。

「お楽しみはこれからだ」った。

二　選挙で痛快な思いをした。

選挙では残念な思いをするのが常で、なぜ、自分の応援する人はいつも負けてしまうのだろうと不思議だった。しかし、よく考えてみると「応援する人が負ける」のではなく、「負ける人を応援する（応援したくなる）」が正しいような気がする。だが、ここ数年はごくごく、まれに、いい思いをすることがある。うれしく、「痛快、痛快」という気分になる。このような思いをした経験は、今後もきっとあるだろうという希望をもたせてくれる。

「お楽しみはこれからだ」った。

三　初めての本との出会いがあった。

本を読んでも、内容をすぐ忘れてしまうので、印象に残った個所を、少なくとも一か所はノートに書き写すことにしている。所員になってから読んだ本の中から少し抜き書きしてみよう。

①「臆病であったり気が弱かったりした場合、本人はともすれば自分の性格を、社会生活に適していない悲しむべき性格であると考えてしまう。臆病な動物ほど頭がいいといわれるように、実は臆病さは知能の高い証拠であり、また気が弱いというのも一面から見れば気がやさしいということでもあるのだが、社会生活をしているうちにはそうした長所のために損をするという場合も何度かあり、本人はこれはもう自分の欠点に違いないと思いこんでしまうのである。」

（筒井康隆『私説博物誌』、新潮文庫）

②「誰でも実際に働いてみればわかるように、仕事は選ぶよりも続けるほうが格段に難しい。そして続けられた理由なら私にも答えられる。屠殺が続けるに値する仕事だと信じられたからだ。ナイフの切れ味は喜びであり、私のからだを通り過ぎて、牛の上に軌跡を残す。労働とは行為以外のなにものでもなく、共に働く者は、日々の振る舞いによってのみ相手を評価し、自分を証明する。」

（佐川光晴『牛を屠る』、双葉文庫）

③「昆虫少年は減るばかり。みんな忙しいのだ。未だに虫採りなどをしている私には、後継者のいない伝統芸能を守る人間の心境もこんなものかと思われる。そして昆虫採集をしたことのない人が増えるにつれて、誰も虫などには関心を持たなくなり、その無関心な人がとって付けたように自然保護という建前を振りかざして採集の禁止を叫ぶようになる。」

（奥本大三郎『楽しき熱帯』、集英社）

野坂昭如のエッセイにあった、「本さえあればなんとかなるのだ」は名言ではないだろうか。

「お楽しみはこれからだ」った。

四　初めての土地への旅行が増えた。

大学時代の十名ほどの寮仲間と、年に一回、旅行会を開いている。ここ五年間の旅行先は「利尻島・礼文島→金沢→大阪→福井→秋田」である。5年前は朝9時に新潟の家を出て、その5時間後には稚内の西に浮かぶ島に着いていた。礼文島では沖合にゴマフアザラシの姿を見ることができた。昨年は男鹿半島で本場のなまはげを鑑賞した。利尻・礼文と男鹿は初めての土地であり、大阪に行く前に立ち寄った鳥取と島根も、初めての土地だった。

「お楽しみはこれからだ」った。

五　趣味をより深く味わえるようになった。

将棋は強い人には負けるが、実戦からは、もう何年も、遠ざかっている。最近はもっぱ

ら「観る将」で、ネット観戦を楽しんでいる。週に何回かはネット中継があるのでうれしい限りだ。

囲碁は弱い人には勝つが、こちらも実戦は年に一度あるか、ないか。

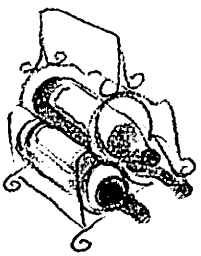
麻雀は弱い人にも負ける。数年前まで勝率は一割にも満たなかった。敗因はハッキリしていて、あがり役の点数を数えられなかったからである（ムボーというほかはない）。将棋・囲碁も麻雀も、本当におもしろい。

「お楽しみはこれからだ」った。

だが、しかし。時たま、「そんな生活をしていていいのか」と、まるで戒めのように、教師をしているときの夢に襲われる。

授業中に多くの生徒が机にうつぶしている夢は何度もみた。つい先日は、クラスの子が欠席時数をオーバーして進級できなくなった夢をみた。

ノーテンキな不良老人が作文している、いま、この時間にも、なにものかになろうと必死に努力している若者たちが日本のあちこちにいることを信じたい。

お楽しみは、これからだ。

（おのづかつねお・所員）